

## 保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 稲城青葉会
施設名	城山保育園上石原
報告者（役職）	城所 理恵（園長）
住所・連絡先	東京都調布市上石原3丁目8番10
	☎ 042-490-2031
	E-mail shiroyama-kamiishi@aobakai.or.jp

○タイトル（保育計画）

城山ミュージアム ～自然と友だち～

○主な助成備品

いのちのキューブ（水槽・飼育箱）・熱帯魚飼育用品一式

### 1. 保育計画策定の目的

人の一生において幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。子ども達は、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、情緒的・知的な発達、あるいは社会性を涵養し、人間として、社会の一員として、より良く生きるための基礎を獲得していきます。

当園では、保育方針を「豊かな心と身体を育み、自立を見守る」とし、その中での園の特徴として自然と親しむ体験保育を行っています。自ら経験することでさまざまなことを学んでほしいと考えています。

近年は、少子化、核家族化が進行し、また都市化や情報化の進展によって、子どもの生活空間の中に自然や広場などといった遊び場が少なくなる一方で、テレビゲームやインターネット等の室内の遊びが増えるなど、偏った体験を余儀なくされている現実があります。

だんだんと自然に触れる機会が減りつつある現代、自然の変化に気づいたり、動植物と触れ合う機会が少なくなっています。子ども達は、テレビゲームなどの影響で現実と架空の区別が混同、錯覚し、命の重さを感じられなくなっているように思われます。今、ニュースに取り上げられている問題、いじめやストーカーなどの事件に発展していくのは、このような体験が不足しているからなのかもしれません。

当園では、乳幼児期から自然と触れ合うことで生き物の大切さ命の大切さを感じてほしいと考えました。そして、当園の保育方針にもあるように自然と親しむ体験保育を行い、子どもたちが自ら学んでもらいたいと考え、身近に触れ合える教材として、水槽で魚を飼育、観察できるものを取り入れたいと考えました。

## 2. 具体的な実施内容

子どもたちが自ら学んでもらいたいと考え、身近に触れ合える教材として、水槽で魚を飼育、観察できるものとして、「いのちのキューブ」を購入したいと考えました。

「いのちのキューブ」とは、鑑賞する目的だけの普通的水槽とは違い、子ども向けに観察できるように丸く凹レンズ、凸レンズになっています。また、一つの水槽に仕切られて水の生き物と陸の生き物が比較して観察できるようになっています。さらに、水槽の高さもこどもがのぞけるように低くできています。

水槽「いのちのキューブ」を3台絵本コーナー横の廊下に設置し、水槽の中に魚やエビ、ドジョウなどの小動物やカブトムシの幼虫を入れて飼育しました。



水と陸の生き物を比べる水槽



凹面で顔が入る覗ける水槽



色つきライト水槽



絵本コーナー横の廊下に設置



水槽の魚たち



### <保育内容・目的>

- ・ 昆虫や小動物を飼い、その生き物の名前や生態・命の大切さを知り、興味や関心を持って育てていく。
- ・ 昆虫や小動物をいのちのキューブに入れて観察やお世話をして楽しむ。

### <保育内容のために保育者が配慮したこと>

- ・ 生き物の世話をしたり、図鑑で調べたりできる環境を作っていく。(水槽の横に絵本コーナーがある)
- ・ 生き物の美しさや、不思議・素晴らしさを感じられるように声掛けをしていく。
- ・ 自然の恵みに感謝ができるような言葉かけをするように心がける。
- ・ 季節の変化に目を向け、子どもたちの発見や気づきを大切に受け止めていく。

### 3. その成果と評価

水槽を置いた結果… 子どもたちの反応は期待以上であった。

- ・ 散歩に行く前や帰ってきてから、子ども達が魚たちに笑顔いっぱいであい拶してから通っている。
- ・ くぼんだガラス面は水槽の中に入った様な感覚を覚えるようで、子どもに人気の場所である。ここでは「〇〇ちゃんの次に見る！」のように順番を待つ姿も見られる。
- ・ カブトムシの幼虫に興味を持ち、誕生から死までをじっくり観察できるようになっている。虫を通して「命」を知る良い機会になった。
- ・ 大人も子どもと一緒に魚を観察することで、癒される場所となった。
- ・ 生き物の様子をよく見ている、「エビが脱皮しているよ〜!」「赤ちゃん生まれているよ」など小さな変化も気づいている。魚の様子をよく観察しており、元気だとか、元気がないとか、魚が死んでしまったとか、死骸をエビが食べてしまったことも、子ども達が一番先に気づいて報告してくれる。毎日何回も覗いて観察するのが多くの子どもの習慣になっている。
- ・ 生き物を怖くて触れない子でも、見て楽しめている。
- ・ 水槽を玄関前の廊下に設置することで送迎の際なども保護者と一緒に見て観察をしている姿がみられた。水槽をとおして親子でのコミュニケーションがとれ、会話が広がった。
- ・ 絵本コーナーに隣接して設置したことも、子ども達の興味を一層育むことに功を奏した。水槽で飼っている魚の種類、飼育箱の昆虫などについて、絵本コーナーにある図鑑で改めて調べてみるという流れが自然と定着した。水槽をきっかけに生き物に対する興味がひろがっていると実感している。
- ・ 「いのちのキューブ」を設置して、生き物の生死まで含む命の連鎖を子どもたちに伝えるというその役割は、思った以上に大きな役割を果たしてくれている。



### 4. 今後の課題と展望

年長組がエサやり等お世話をする予定でいたが、今年度はできなかったので来年度は幼児組がお世話をして触れあえるようにしていきたいと思います。

今までは、魚の様子を観察しているだけだったが、来年度からは、魚や昆虫のお世話をし、観察から餌をたべて排泄するという、食のサイクルを理解してもらいたいと思っています。

以上